

平成15年度第1回大台ヶ原自然再生検討会

- ◆日 時 平成15年8月29日(金) 14:30~17:00
- ◆場 所 奈良市「奈良県文化会館」
- ◆出席者 検討委員/9名の委員全員出席, 関係行政機関/近畿中国森林管理局, 奈良県環境省/亀澤近畿地区自然保護事務所長, 安部自然環境計画課課長補佐 他
- ◆議 事
 - 1 平成15年度自然再生推進計画調査の体制について
 - 2 平成14年度調査を踏まえた整理について
 - 3 平成15年度の調査・検討の進め方について

◆議事概要 (会議は公開で行われた)

議事1

○平成15年度自然再生推進計画調査の体制について, 相互に密接な関係がある「森林再生手法検討部会」と「野生動物部会」を統合し「森林生態系部会」とし, 「利用対策部会」との2部会にすることを事務局より説明。

議事2

○資料1, 資料2に基づき, 平成14年度調査結果を踏まえた整理と「森林衰退の流れ」(推定)や仮置としての「自然再生目標」・「基本的な考え方」について, 事務局より説明。

○委員からの主な指摘

- ・ 自然再生目標について, 生物多様性の観点から, 「森林」の保全だけでなく, 動物相を含む健全な森林生態系の保全についても明記すべき。
- ・ 自然再生目標に関連し, 昭和30年代前半までの林業の実態や自然林の状況について確認すべき。

議事3

○資料3に基づき, 平成15年度の調査・検討の進め方について事務局より説明をし, 主な調査方針等について了承された。

○委員からの主な指摘

- ・ 森林生態系関係調査について, シカによる被食によって危機的状況にある種に着目した調査も加えるべき。
- ・ 再生のプロセスについて, シカの食害対策を防鹿柵に限定すべきではないこと, 本年度の調査を踏まえより具体的なものとしていく必要があること。
- ・ 利用対策のあり方について, 交通規制について具体的検討をする時期にきており, その際, 地域振興との両立という視点が不可欠。また, その検討にあたり, 地域住民などを含めた多くの人が参画出来る仕組みづくりをしていくべき。

○委員からの意見も踏まえた調査の具体的な手法等については, 今後, 各部会やワークショップにおいて検討することとなった。

[文責 近畿地区自然保護事務所]